

主要産地における令和4年産水稻の生育状況等について 第7報 (令和4年7月8日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和4年7月8日)

道府県	区分	生育状況等	技術・防除・気象等関連公表資料 (自治体、気象台等公表資料の抜粋)	(参考)
		育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等		
北海道	(生育)	<p>【生育状況 (7月1日現在)】</p> <p>(全道) 各作物の生育は、6月前半の低温と日照不足により停滞したものの、後半の気温が高かったことから、平年に推移している。(北海道農政部 7月7日付)</p> <p>(空知) 生育は平年並である。(空知総合振興局 7月7日付)</p> <p>(石狩) 分けつ後の発生は日照時間が短く遅延している。(石狩振興局 7月7日付)</p> <p>(後志) 遅延はプラスマイナス0日。(後志総合振興局 7月7日付)</p> <p>(胆振) 生育は平年並。(胆振総合振興局 7月7日付)</p> <p>(渡島) 茎数は平年よりやや少ないが、生育は平年並に進んでいる。(渡島総合振興局 7月7日付)</p> <p>(檜山) 育は概ね平年並で推移。(檜山振興局 7月7日付)</p> <p>(上川) 生育は平年並に推移している。(上川総合振興局 7月7日付)</p> <p>(留萌) 生育は平年並に進んでいる。(留萌振興局 7月7日付)</p> <p>(オホーツク) 6月上旬までの低温寒害で分けつが遅れたことにより、幼穂形成はやや遅れている。(オホーツク総合振興局 7月7日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日～8月8日】</p> <p>北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し7月～9月】</p> <p>北海道地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p>	<p>・「なつぼし」及び「ゆめぴりか」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。</p> <p>(農林水産省 3月16日)</p> <p>(出典資料は以下同じ)</p>
青森	(生育)	<p>【県生育観測所の生育状況】</p> <p>(6月30日現在、平年と比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つがるロマン」は、草丈がやや長く、茎数は並、葉数は0.4枚多い。 ・「まっしぐら」は、草丈がやや長め、茎数がやや少なく、葉数が0.5枚多くなっている。 ・葉数からみた生育進捗は、平年より「つがるロマン」が2日程度、「まっしぐら」が3日程度進んでいる。(青森県 7月5日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日～8月8日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「つがるロマン」及び「まっしぐら」の2品種で9割を占める品種構成で、近年、収量水準の高い「まっしぐら」が増加傾向にあり、令和4年産も同様の傾向になるものと考えられる。</p>
岩手	(生育)	<p>【水稻作況調査ほ場の7月5日の生育状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草丈は+1.9～-1.2cmと概ね平年並、葉数は+0.5～-0.2葉と平年並～やや早まっている。 ・茎数は平年比 82～69%と平年を下回っているが、前回 (6月24日) の調査時 (平年比 78～60%) より回復しつつある。 ・葉色 (SPAD 値) は平年並+0.7～-0.9 とほぼ平年並となっている。 ・生育ステージは、穂首分化期が平年並+1日と概ね平年並となっている。(岩手県農業研究センター 7月7日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日～8月8日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県のオリジナル品種である「銀河のしずく」が、耐冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
宮城	(生育)	<p>【7月1日現在】</p> <p>(大河原) 生育は回復傾向。草丈は概ね平年並、茎数はやや少なめ。(宮城県大河原農業改良普及センター 7月4日付)</p> <p>(亶理) すべてのほ場で6月20日に比べて生育は回復傾向にあり、田植えが比較的早かったほ場では概ね目安の茎数 (410～460本/m²) を確保できている。(宮城県亶理農業改良普及センター 7月4日付)</p> <p>(仙台) 移植栽培 (ひとめぼれ) 草丈は49.3cm、茎数は530本/m²で、概ね前年並及び平年並の生育となっている。(宮城県仙台農業改良普及センター 7月4日付)</p> <p>(石巻) 平年と比較して、草丈は長め、茎数は少ない。(宮城県石巻農業改良普及センター 7月4日付)</p> <p>(気仙沼) 6月上旬の低温により、生育は平年・前年を下回っていたが、6月中旬以降の高温・多照により、前年・平年並から上回る生育となっている。いずれも幼穂形成始期 (幼穂長 1～2mm) の直前であり、生育はかなり進んでいる。(宮城県気仙沼農業改良普及センター 7月4日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日～8月8日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【高温に関する早期天候情報】</p> <p>東北地方は7月6日頃から、かなりの高温 (気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。</p>
秋田	(生育)	<p>(由利) 6月24日の水稲定点調査結果 (2品種・移植6か所平均) によると、草丈は35.7cmで平年より短く (平年比95%)、m²あたり茎数は468本で平年並 (平年比100%)。葉数は8.8葉で平年並 (平年並+0.1葉)。</p> <p>(平鹿) 6月24日現在の水稲定点調査 (あきたこまち11か所) では、草丈29.3cm (平年比84%)、茎数230本/m² (同比68%)、葉数7.8葉 (同差-0.6葉)。(秋田県農林水産部 7月1日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日～8月8日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
山形	(生育)	<p>【6月30日現在の生育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つや姫」の生育は回復傾向。「雪若丸」の茎数は十分確保されている。(村山総合支庁農業技術普及課 7月5日付) ・作柄診断 (鶴岡市上清水) の生育は、平年に比べて、草丈は長く、茎数はやや少なく、葉数の展開と葉色は並となっている。また、早生～中生品種の幼穂の生育状況では、出穂は平年並からやや早いと予想されている。(庄内総合支庁農業技術普及課 7月1日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日～8月8日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。新品種「雪若丸」は増加傾向にある。</p>
福島	(生育)	<p>【6月7日調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業総合センターの生育調査では、草丈は本部 (郡山市) が平年並からやや長く、会津地域研究所 (会津坂下町) と浜地域研究所 (相馬市) が短くなっている。茎数は、各地域ともやや少ないから少なくなっている。主稈葉数は、本部と浜地域研究所が平年より少なく、会津地域研究所が平年並となっている。(福島県 6月10日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日～8月8日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の高い「天のつぶ」が増加していたが、病倒米への転換が増加していることから比率はやや低下している。</p>
茨城	(生育)	<p>【6月30日現在、水戸市】</p> <p>(5月2日移植) ・幼穂長からの出穂期予測に基づく生育遅延は、「あきたこまち」で4日遅く、「ふくまるSL」4日遅く、「コンヒカリ」で1日遅い。</p> <p>(5月10日移植) ・「コンヒカリ」の主稈葉数からみた生育は、4日早い。(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月5日付)</p> <p>【6月27日現在、龍ヶ崎市】</p> <p>(4月27日移植) ・幼穂長からの出穂期予測は、「あきたこまち」で5日遅く、「コンヒカリ」で平年並、「ふくまるSL」で3日遅い。</p> <p>(5月6日移植) ・「コンヒカリ」主稈葉数の展開からみた生育は、平年より1日早い。(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月1日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日～8月8日】</p> <p>関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成で、近年、多様な多収米への作付け移行が進んでいる。</p>

<p>栃 木</p>	<p>(生育)</p> <p>6月28日時点で平均気温から算出した生育ステージによると、「早稲コシヒカリ(5月6日移植)」の出穂期は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気温が平年並に経過した場合は7月28日、 ・平均気温が+2℃高く経過する7月25日、 ・同-2℃低く経過すると7月31日と予測された。(昨年度の出穂期:7月29日) <p>(栃木県農政部長官補佐 7月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日~8月8日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。
<p>千 葉</p>	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月20日に移植した「コシヒカリ」は6月25日頃(平年より3日遅い)、「粒すけ」は6月24日頃(平年より3日遅い)に幼穂形成期を迎えた。 ・5月1日に移植した「コシヒカリ」は6月29日頃(平年より1日遅い)から幼穂形成期となる。茎数については回復傾向にあるが、引き続き県南地域に向かうほど平年よりやや少なくなっている。 <p>(千葉県 7月1日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日~8月8日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成となっている。令和2年度から新品種「粒すけ」の本格栽培が開始
<p>新 潟</p>	<p>(生育)</p> <p>【6月30日現在】</p> <p>(魚沼) 出穂期は全般に平年より「2日程度」早まる予想。(魚沼農業普及指導センター 7月1日付)</p> <p>(南魚沼) 草丈:並、茎数:並、葉数:並、葉色:やや濃い(ほ場間差大)(南魚沼農業普及指導センター 7月1日付)</p> <p>(上越) 「コシヒカリ」6月下旬の高温により草丈はやや長く、茎数はやや多く、葉数の進みは並で推移。「こしいぶき」草丈は長く、茎数は並、葉数の進みはやや早く推移している。出穂は7月24日頃と平年より2日程度早まる見込み。(上越農業普及指導センター 6月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日~8月8日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月、<i>いんげん</i>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 6月8日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「こしいぶき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきん子舞」「つきあかり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、県では新品種「新之助」(晩生種)の作付拡大を推奨している。
<p>富 山</p>	<p>(生育)</p> <p>【生育状況(7月5日)】</p> <p>「コシヒカリ」: 平年に比べ、草丈は長く、茎数は並、葉色はやや淡く、葉齢はやや進んでいる。葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈はやや長く、茎数は並となっている。幼穂形成期は、平年に比べ2日早い7月9日頃と見込まれる。今後、気温が平年並に推移すると、出穂期は平年に比べ2日早い7月31日頃と見込まれる。</p> <p>「てんたかく」: 出穂期は、平年に比べ4日早い7月15日頃と見込まれる。</p> <p>「てんこもり」: 平年に比べ、草丈はやや長く、茎数は並、葉色はやや淡く、葉齢はやや進んでいる。葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈、茎数、葉色は並となっている。幼穂形成期は、平年に比べ2日早い7月10日頃と見込まれる。今後、気温が平年並に推移すると、出穂期は平年に比べ2日早い8月2日頃と見込まれる。</p> <p>「富富富」: 近年に比べ、草丈は長く、茎数はやや少なく、葉色はやや淡く、葉齢は並となっている。葉齢を揃えて比較すると、近年に比べ、草丈は長く、茎数はやや少なく、葉色は並となっている。幼穂形成期は、近年に比べ1日早い7月12日頃と見込まれる。今後、気温が近年並に推移すると、出穂期は、近年に比べ1日早い8月3日頃と見込まれる。(富山県 7月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日~8月8日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月、<i>いんげん</i>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月6日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているもの、近年高温多湿でも品質が安定している「んこもり」及び「てんたかく」県のトップブランドに位置づけている「富富富」が増加傾向にある。
<p>石 川</p>	<p>(生育)</p> <p>【6月28日調査】【本田の生育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出穂期予想 「ゆめみづほ」の出穂期予想は、加賀地域で7月15~19日頃と平年に比べ1~2日程度早く、能登地域(羽咋~中能登)は7月19日頃と平年に比べ4日程度早いと見込まれる。また、能登地域(奥能登~珠洲)の「能登ひかり」の出穂期は、7月20~2日頃と近年に比べ4日程度早く見込まれる。 <p>(石川県農林総合研究センター 6月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日~8月8日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月、<i>いんげん</i>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月6日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成であるが、近年、県オリジナル新品種「ひやくまん穀」が増加傾向にある。
<p>福 井</p>	<p>(生育)</p> <p>(5月2日移植 ハナエチゼン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼穂形成期は6月26日(平年より1日早い)。 <p>(福井県 7月1日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日~8月8日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月、<i>いんげん</i>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月6日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成である。なお、新品種である「いちほまれ」が増加傾向にある。
<p>長 野</p>	<p>(生育)</p> <p>(佐久)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(佐久市速科「コシヒカリ」7月1日調査平年比)・草丈:104%、茎数(本/m):82%。 ・(佐久農業農村支援センター 7月3日付) <p>(松本)(水稲の生育状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月下旬の著しい高温の影響で生育はかき進んでいる。6月30日現在の水稲生育予測では、「あきたこまち」で平年より1日早、「コシヒカリ」で3日早と推定している。今後高温が予想されているため、さらに早まる事が予想される。 ・(松本農業農村支援センター 7月4日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日~8月8日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県のオリジナル品種「風さかか」の導入を推進している。
<p>滋 賀</p>	<p>(生育)</p> <p>【農業技術振興センター 水稲作況調査(6月20日時点)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草丈は平年に比べ「みずかがみ」は低く、「コシヒカリ」はやや低かった。 ・茎数は、両品種ともに平年より少なかった。 ・葉色は、両品種ともに平年より濃かった。 ・葉数は、「みずかがみ」は平年並、「コシヒカリ」は平年よりやや多かった。 <p>(滋賀県農業技術振興センター 6月27日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日~8月8日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁大阪管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「日本晴」及び「みずかがみ」を中心とする品種構成である。近年、高温多湿性に優れた「みずかがみ」の作付が推進されている。

兵 庫	<p>(7月1日現在)</p> <p>(県北) 「コシヒカリ」の草丈は平年より長く、莖数はかなり多く、葉齢の進展は平年並みである。遅植えでは、草丈は平年よりやや長く、莖数はかなり多く、葉齢の進展はやや早い。</p> <p>(生育) (県北以外) 葉齢の進展は平年よりやや早く、草丈は平年並みからやや低い。</p> <p>(兵庫県 7月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日～8月8日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。「きぬむすめ」の作付拡大を推進している。
岡 山	<p>・極早生種の生育は概ね平年並である。</p> <p>(岡山県病害虫防除所 6月29日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日～8月8日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 7月6日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「アケボノ」、「ヒノヒカリ」、「あきたこまち」、「コシヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。
広 島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日～8月8日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 7月6日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」、「あきたこまち」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。
愛 媛		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日～8月8日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「にこまる」への品種変更が定着してきている。
高 知	<p>【早期稲(穂孕期～出穂期)生育:並】 ・草丈は低いものの、好天に恵まれたことから分けつ数が多く生育は順調である。 ・また、出穂時期が平年よりもやや早く、極早生品種で5日程度、「コシヒカリ」で3日程度早くなっている</p> <p>【普通期稲(分けつ期)生育:並】 ・降水量が少なく、一部の圃場で田植えが遅れた。水不足のため田植えをあきらめた圃場もある。 ・移植後の生育は概ね順調であるが、標高の高い圃場では朝晩の冷え込みにより生育がやや遅れ気味である</p> <p>(高知県病害虫防除所6月報 7月5日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日～8月8日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。
福 岡	<p>【6月15日現在】</p> <p>【早期稲】(夢つくし、コシヒカリ) ・田植え後、天候は安定しており初期生育は良好で、草丈は平年並み、莖数はやや多い。 ・スクミリンゴガイによる食害は一部で認められるが少ない。ウンカ類の発生は圃場では確認していない。</p> <p>(生育) 【普通期稲】(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど) ・育苗期の天候は概ね安定しており、生育は良好で病害の発生は少ない。 ・一部地域では、5月中旬～6月上旬植えで、水不足の影響により田植えが遅れていたが、6月5～6日の降雨により概ね解消している。</p> <p>(福岡県農林業総合試験場 6月15日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日～8月8日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が減少傾向、「元気つくし」が増加傾向となっている。なお、県では今後新品種「夢つくし」の拡大を推奨している。
熊 本		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日～8月8日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>向こう1か月、いもち病の発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 7月6日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。「くまさんの輝き」はリーディング品種として取扱いが年々拡大している。
宮 崎	<p>【作物の生育状況(6月中旬)】</p> <p>(生育) ・早期稲は穂ばらみ期、普通期稲は移植前後(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月22日)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日～8月8日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【高温に関する早期天候情報】 九州南部地方は7月13日頃から、かなりの高温 (鹿児島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、いもち病の発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 7月6日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「みき358」への作付誘導が進められている。
鹿 児 島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月9日～8月8日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【高温に関する早期天候情報】 九州南部地方は7月13日頃から、かなりの高温 (鹿児島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、いもち病の発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 7月6日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早期栽培では、収量水準の高い「なつほのか」への移行が急速に進んでいる。

注1：国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：令和4年7月7日 12時時点での取り纏め。
注3：更新箇所は赤字で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 7月1日現在(北海道農政部 7月7日)、
農作物生育状況 7月1日現在(北海道空知総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道石狩振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道後志総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道胆振総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道渡島総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道檜山振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道上川総合振興局 7月7日)、
農作物生育状況調査の概要7月1日現在(北海道留萌振興局 7月7日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月7日)、
稲作生産情報第5号(青森県「攻めの農林水産業」推進本部 7月5日)、
令和4年度水稲生育定期調査結果No.4(7月5日現在)(岩手県農業研究センター 7月7日)、
仙台稲作情報2022(第4号)(宮城県仙台農業改良普及センター 7月4日)、
仙南稲作情報(第3号)(宮城県大河原農業改良普及センター 7月4日)、
稲作情報No.4(宮城県石巻農業改良普及センター 7月4日)、
令和4年度水稲・南三陸稲作情報第6号(宮城県気仙沼農業改良普及センター 7月4日)、
令和4年度稲作情報第4号(宮城県亶理農業改良普及センター 7月4日)、
こまちチャンネル<http://www.e-komachi.jp/>(7月7日閲覧)、
つや姫雪若丸通信第3号(村山農業技術普及課 7月5日)、
つや姫だより穂肥特別号(庄内総合支庁農業技術普及課 7月1日)、
主要な農作物の生育情報令和4年度第3号(福島県農林水産部 6月10日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所 7月5日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所 7月1日)、
令和4(2022)年度水稲生育診断予測事業速報No.4(栃木県 7月5日)、
水稲の生育と当面の対策第4報(千葉県農林水産部 7月1日)、
水稲の生育と今後の管理対策(臨時第1号)(新潟県 6月10日)、
コシヒカリ生育情報第4号(魚沼農業改良普及センター 7月1日付)、
南魚沼産コシヒカリ生育速報No.4(6月30日調査)(南魚沼農業普及指導センター 7月1日)、
コシヒカリ・こしいぶき生育速報No.4(6月30日)(上越農業普及指導センター)、
TACS情報第6号(富山県 7月5日)、
令和4年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-6号)(石川県農林総合研究センター 6月30日)、
稲作情報No.9(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月1日)、
令和4年7月1日水稲生育調査結果(佐久農業農村支援センター 7月3日)、
令和4年作物技術普及情報第11号(松本農業農村支援センター 7月4日)、
令和4年度水稲生育診断情報No.2(滋賀県農業技術振興センター 6月27日)、
令和4年度兵庫県農業気象技術情報No.2(7月情報)(兵庫県 7月5日)、
令和4年度病害虫発生予報第4号(岡山県 6月29日)、
病害虫発生予察情報について(高知県病害虫防除所 7月5日)、
福岡県の主な農産物の生産状況(専技情報より抜粋)(福岡県農林業総合試験場 6月15日現在)、
令和4年度病害虫発生予報第2号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 6月22日)、

北海道地方向こう1か月の天候の見通し(7月7日札幌管区气象台)、東北地方向こう1か月の天候の見通し(7月7日仙台管区气象台)、関東甲信地方向こう1か月の天候の見通し(7月7日気象庁)、
北陸地方向こう1か月の天候の見通し(7月7日新潟地方气象台)、近畿地方向こう1か月の天候の見通し(7月7日大阪管区气象台)、中国地方向こう1か月の天候の見通し(7月7日広島地方气象台)、
四国地方向こう1か月の天候の見通し(7月7日高松地方气象台)、九州北部地方向こう1か月の天候の見通し(7月7日福岡管区气象台)、
九州南部・奄美地方向こう1か月の天候の見通し(7月7日鹿児島地方气象台)、

北海道地方向こう3か月の天候の見通し(6月21日札幌管区气象台)、東北地方向こう3か月の天候の見通し(6月21日仙台管区气象台)、関東甲信地方向こう3か月の天候の見通し(6月21日気象庁)、
北陸地方向こう3か月の天候の見通し(6月21日新潟地方气象台)、近畿地方向こう3か月の天候の見通し(6月21日大阪管区气象台)、中国地方向こう3か月の天候の見通し(6月21日広島地方气象台)、
四国地方向こう3か月の天候の見通し(6月21日高松地方气象台)、九州北部地方向こう3か月の天候の見通し(6月21日福岡管区气象台)、
九州南部・奄美地方向こう3か月の天候の見通し(6月21日鹿児島地方气象台)、

高温に関する早期天候情報(九州・奄美地方)(7月7日鹿児島地方气象台)、

令和4年度 病害虫発生予報第4号(農林水産省 7月6日)、
令和4年度水稲の10a当たり平均収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月16日)